



港湾部攻略の書

【ご注意ください！】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意ください。

このレポートの著作権は齊藤真吾に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を

いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等

することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記に記載された
事項に同意したものとみなします。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を
いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等
することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った場合、その他の不法行為に
該当する行為を行った場合は、関係法規に基づき
損害賠償請求を行う等、民事、刑事を問わず
法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートの情報は作成時点での著者の見解等です。
著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、
見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、
万が一誤り、不正確な情報等が有りましても
著者及びパートナー等の業務提携者は一切の
責任を追わない事をご了承願います。

このレポートを利用することにより生じた
いかなる結果につきましても、著者及び
パートナー等の業務提携者は一切の責任を
追わない事をご了承願います。

【推奨環境】

このレポートに記載されているURL はクリックできま
す。

できない場合は最新のAdobeReader を下記のページより

ダウンロードしてください。（無料）

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

目次

- ・はじめに
- ・最も流れの強い場所は？
- ・水道の角とは？
- ・港湾部といえは、このポイント
- ・そして、実はこのエリア・・・、
- ・最後に

はじめに

これからシーバスを始める

あなたへ贈る、

港湾部というフィールドを

攻略するためのバイブル。

【港湾部攻略の書】

を作ってみました。

あなたのホームフィールド、
港湾部を攻めるために必要な
基本的知識と狙うべきポイントに
ついて、詳しく解説しています。

あなたのシーバスフィッシングに
役立てて頂けると嬉しいです。

少し長いですが、最後まで
お付き合いくださいね。

では、ちょっと簡単に[自己紹介](#)。



ニックN しん

出身 名古屋

生息地 三重県

誕生日 10月3日

所属 辰年

階級 1児のパパ

流派 ネコ派

仕事 運び屋

趣味 釣り全般

性格 真面目8：不真面目2

優しく温厚で争いを好まない

気は長く、負けず嫌い

妻 可愛くて取っ付き易い性格の
誰からも好かれる料理上手

好きな言葉 未来だけが唯一変えられる！

自業自得！

夢追い人であれ！

いずれ日本全国を

シーバスフィッシングで釣り歩くという

ちっぽけでくだらない野望を持った

シーバスアングララーです。

地球（ほし）と人との繋がりを求めて。

大自然の中に身を置き感じる。
時には静かに、時には激しく生命と対話する。
己の慣性を元に知的に歩む。
その先に待つドラマへと！。

あなたもシーバスフィッシングを始めてみませんか？

という理念をソウルコピーとして

シーバスフィッシングをもっと世の中に

広めていきたい単なる釣りバカです。

よろしくお願いします。

詳しいプロフィールはこちら

↓↓

<http://seabass-live.link/?p=350>

【最も流れの強い場所は？】

こんにちは、しんです。

いよいよ**港湾部**ですね。

多くの釣人が集まる広大な

フィールドがほとんどです。

しっかりとポイントを

絞っていかないと釣れない

フィールドなので、しっかりと

あなたの技術として

落とし込んでくださいね。

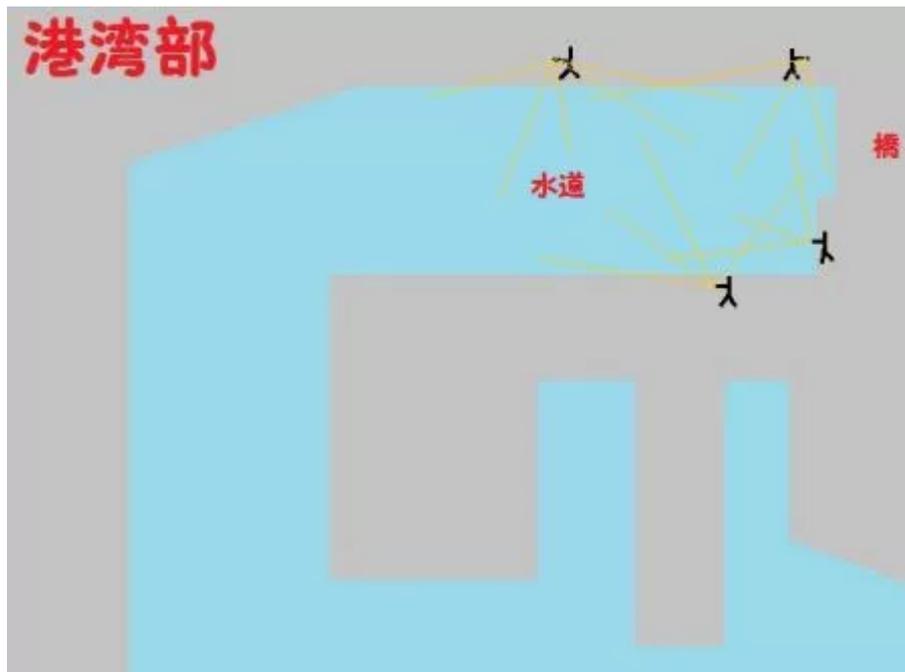
港の入口になっている部分は

だいたい橋になっていて

その下を水が流れています。

なぜなら、船が通れないと

都合が悪いから。



この港の外回りの大規模な水路を
私は勝手に水道と呼んでいます。

今ひとつパツとしない流れが多い
港湾部の中で、時間帯によっては
しっかりと流れの出る、
重要なポイントになっています。

特に橋の下はそこだけ細くなっていて
どちら側も一級ポイントと
なっている所が多いですね。

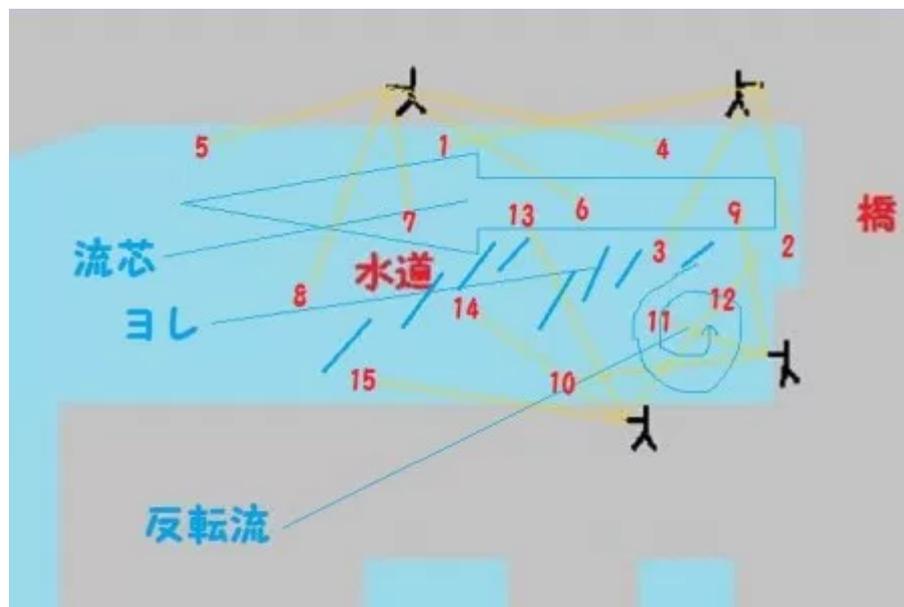
実はこのポイント、場所に寄っても
違いますが、ほとんどの場合で
流れの向きが潮のタイミングなどで
真逆になるフィールドが多いです。

つまり、ポイントに付いたら
どっちに向かって流れているのかを
確認する必要があるんです。

まあ、通っているうちに
そのうち読めるように
なってきますけどね。

今回の場合は、

橋の下から左に向かって
流れているものと仮定して
お話します。



攻める順番は岸壁沿いから
ということさえ押さえておけば
どこから釣り始めても大丈夫です。

**1番のキャストはお決まりの
岸壁さぐり。**

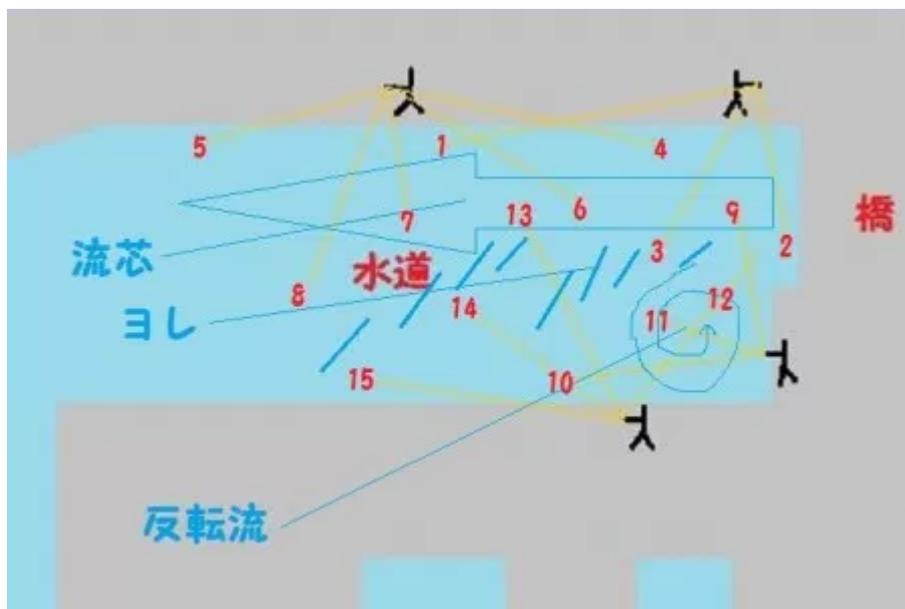
**その次は2番にキャストして
橋の下から出る流れにルアーを
乗せて3番へと流します。**

そのまま、流されるベイトを
演出して足元までキッチリと
リトリートしてください。

ドリフトという流れを利用した
釣技ですね。

強い流れに流されながらも、
なんとか泳いでいるベイトを
演出しながらシーバスのいる
ところへルアーを
送り込んでいく技です。

リトリブとは水中で
ルアーを引いてくる事。



次は4番のキャスト。

このキャストはバイブレーションを
使った岸壁ジギングという
釣技専用です。

岸壁ジギングとは、
ハイアピールなリアクションバイト系の
ルアーを使って逃げ惑う小魚を
演出し、シーバスに反射的に口を
使わせる釣技を岸壁沿いでやる技です。

岸壁沿いの縦の面をロッドで
アクションさせながら
巻き上げて来る、通常とは違う

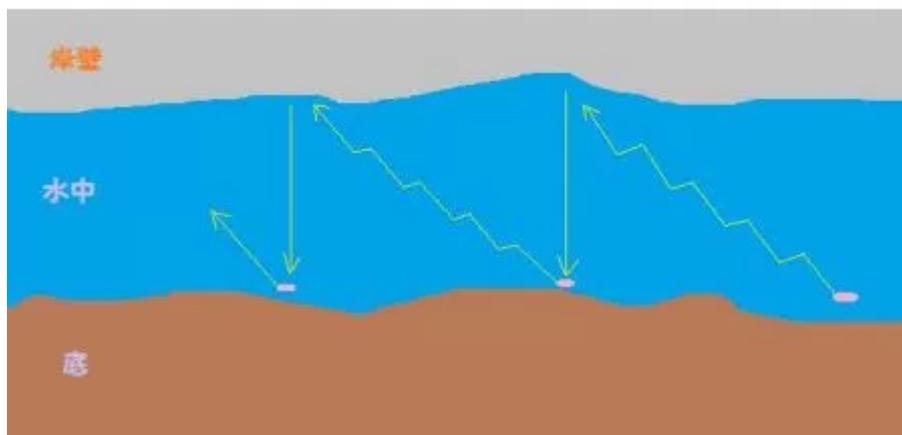
縦のアクションです。

コレを基本的には斜め横に
巻き上げて自分も少しづつ
移動していきます。

イメージとしてはこんな感じ。

↓↓

岸壁ジギング



この4番のキャストは
ここでする必要はありませんが

一応、こういう釣技があるという
事を知っておいてください。

日によってはコレしか釣れない
日もたまにあります。



5番の岸壁リトリーブです。

横のリトリーブですよ。

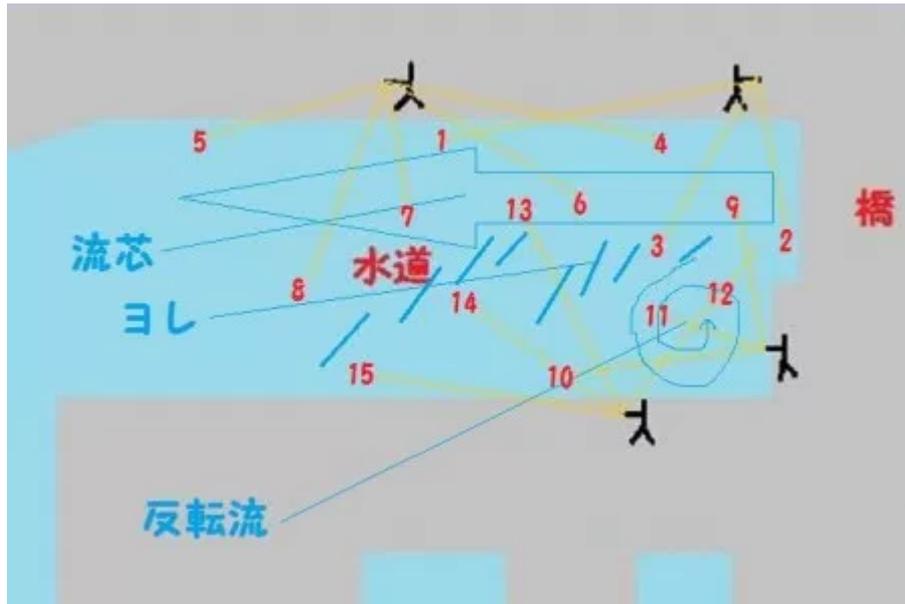
下流から上流へ頭を向けている
ベイトを演出してゆっくりと

引いてきます。

6番のキャストです。

流れの流芯部、もしくは
その少し奥へキャストして
ドリフトをやります。

7番あたりまで流して
キッチリと足元までルアーを
引いてきてくださいね。



そして8番のキャスト。

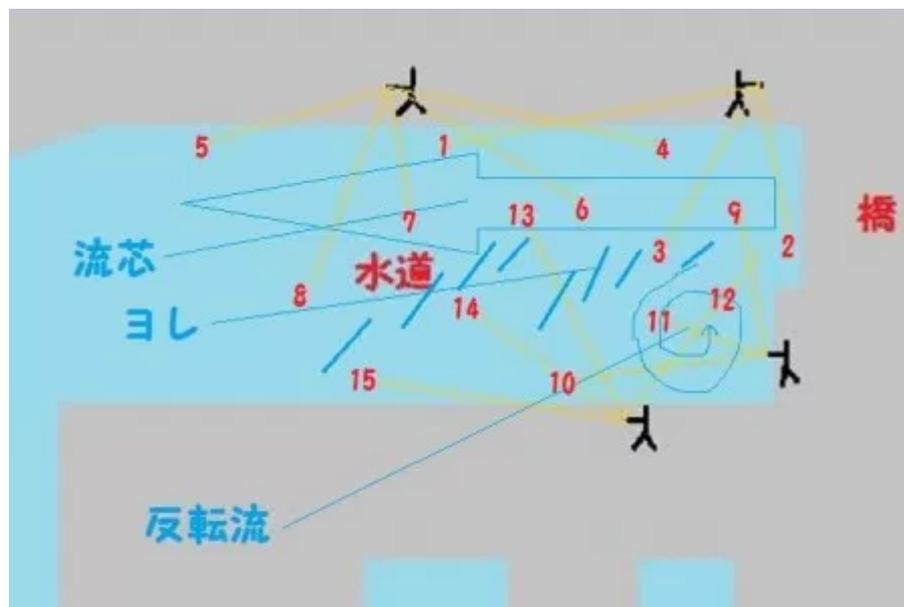
このあたりまで来ると
流れが少し広がりますので
流芯の向こうへキャストして
ゆっくりと流されながら
足元まで引いてきます。

あっ、番号打ち間違えた・・・。

まっ、いっか。

10番のキャストです。

岸壁リトリーブですね。



次は9番にキャストします。

そこからドリフトで11番あたりまで

流されて反転流の中を足元まで

キッチリと引ききってください。

移動して、12番のキャスト。

反転流の中をゆっくりと

引いてきます。

次に13番へキャストして

おなじみのドリフトをやります。

14番あたりまで流されてから

足元まで引いてきてくださいね。

そして、15番は岸壁リトリーブです。

この最も流れの強い、

“橋の下の流れに関わるポイント”は
こんな感じの攻め方をして頂けると
何かしらの反応を得られるでしょう。

目安としてですが、

昼間は200センチよりも下の
レンジを探ってください。

これは水面からの距離です。

夜は80センチから100センチ

あたりがオススメです。

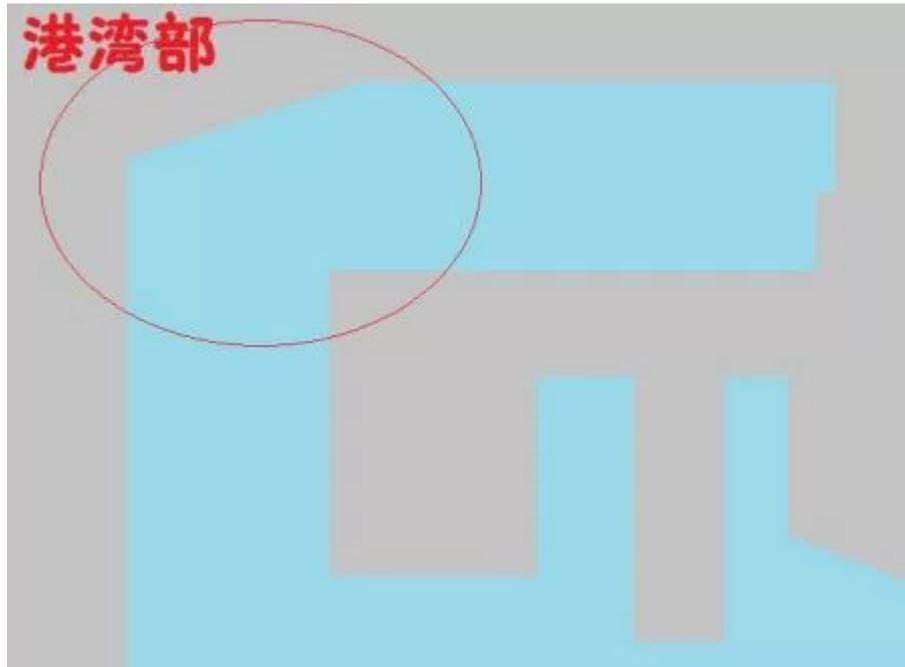
と、言っても

天候や濁り具合にも寄りますので

参考程度に覚えておいてくださいね。

【水道の角とは？】

ここも外せないポイントです。



一見、特に何も無いフィールド
ですが、**実は一級ポイント。**

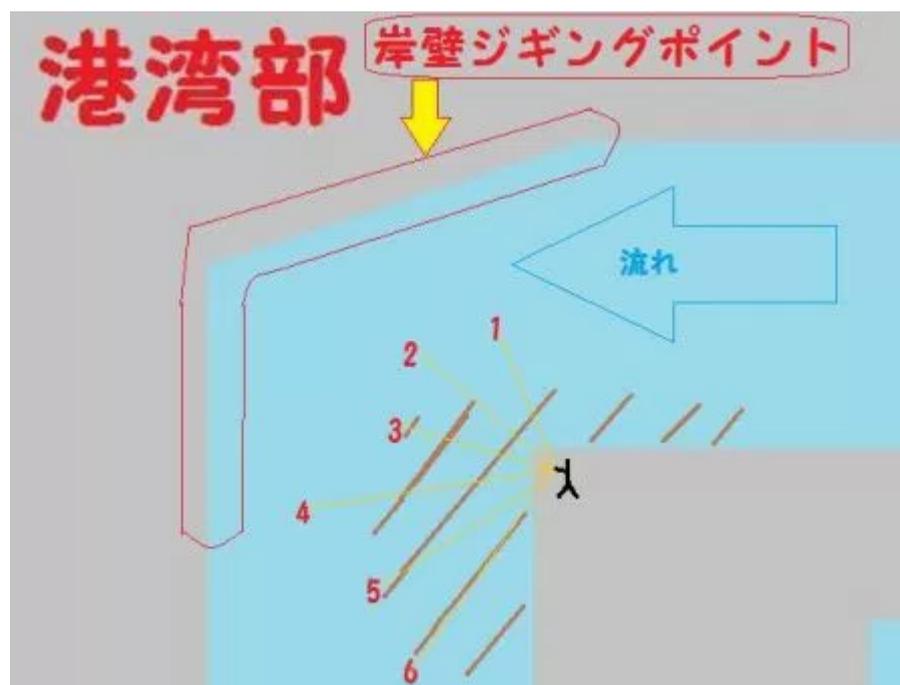
そんなに強くはないが
大きな流れがゆっくりと通る
広大なフィールドです。

赤い線で囲われた場所は
いわゆる**流れの当たる場所。**

こういうところは

岸壁ジギングの一級ポイントに

なるんです。



どういう事かというと、

岸壁ジギングには釣れる岸壁と
釣れない岸壁があるんです。

では、どう見分けるのか？

実は岸壁ジギングでよく釣れる

“いい岸壁”と言うのは
フレッシュな潮が当たる
岸壁なんです。

つまりは流れの当たる場所。

それも、この画像の場合だと

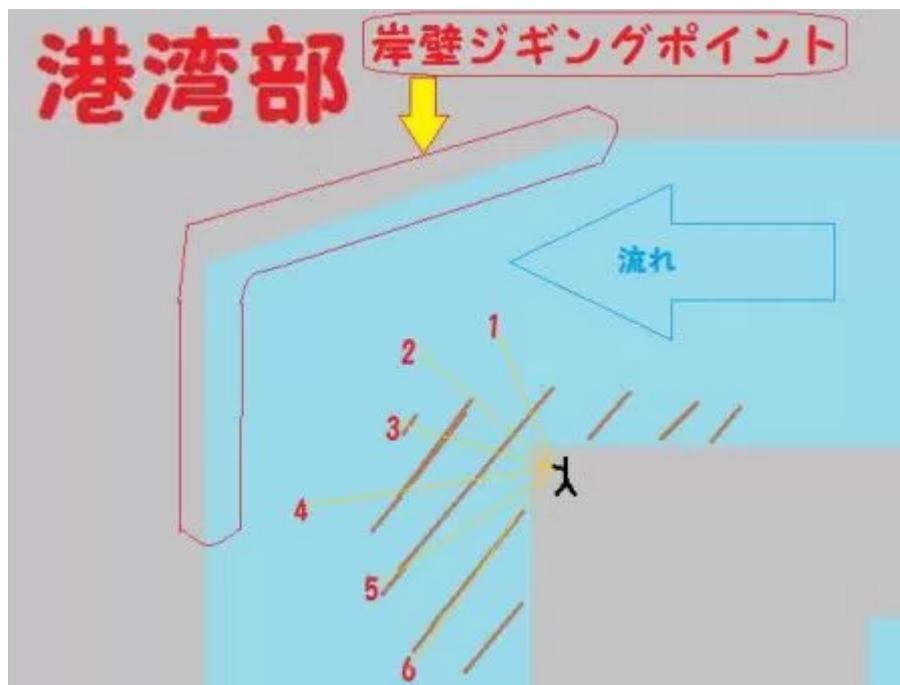
潮の流れが逆向きの時のほうが

いいという事。

なぜなら、**沖からのフレッシュな**

潮が流れ込んでくるから。

参考までに覚えておいてほしい。



さらに茶色の線で示したエリアは

大きな流れのブレイクラインに

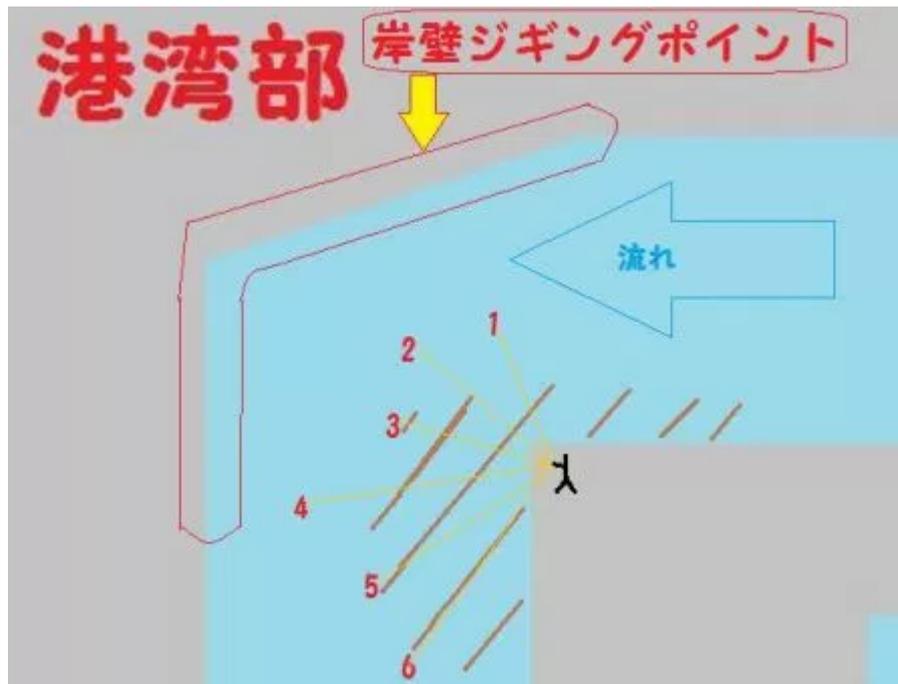
なっている事があるんです。

ブレイクラインとはいわゆる
カケアガリの事。

流れなどで削られたりして
水中で斜面になっている
地形の事です。

1番へキャスト。

そしてドリフトで2番、3番へ
流していきます。



次は4ばんへキャスト。

同じく5番、6番へ流していきます。

もちろん流れの向きが変われば

攻め方も反対になります。

【港湾部といえば、このポイント】

最も気になるのは

港湾部の**大型船停泊エリア**。

大型船が荷物の積み下ろしを

するために、侵入しても船体の底を

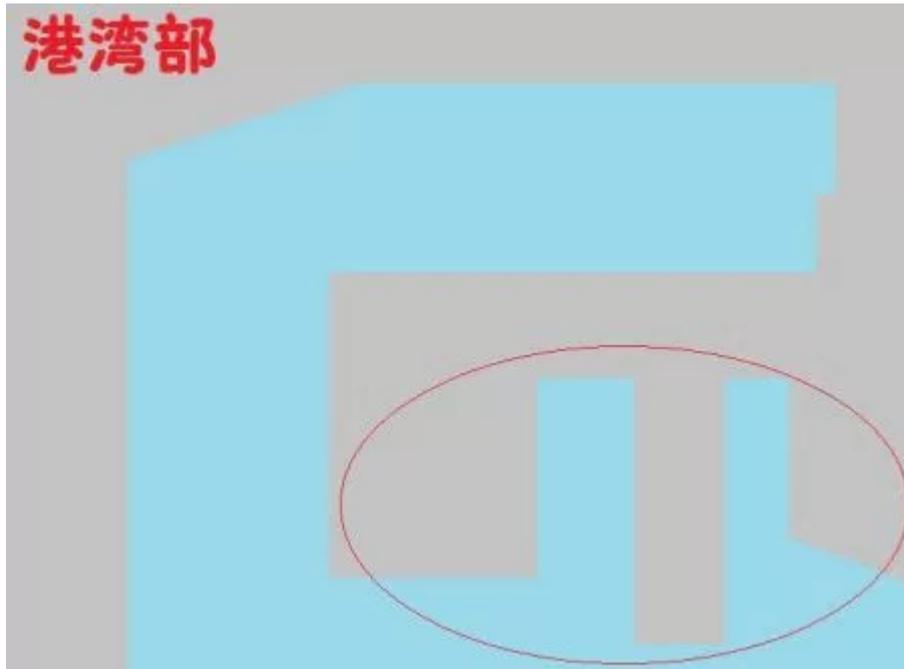
地面にすらないように、深く掘ってある

場所がほとんどです。

フィールド規模もかなり大きく

いちいち広いので少し手に余る

フィールドだと思えます。



私も慣れるまでは広すぎて
ポイントを絞りきれずどこへ
キャストしたら釣れるのか
さっぱり分からない
フィールドでしたからね。

「ここ魚いるのか？」って
思うくらいです。

もちろん、居ますよ。（笑）

ただ、いつでも釣れるという
わけではないですね。

こんな事を言ってしまうと
どのフィールドのそうなんですが
港湾部のこの水深のあるエリアは
特にその傾向が強いです。

その中でも特に季節によって
時期によって釣れる時と
釣れない時がハッキリしやすい
場所ですね。

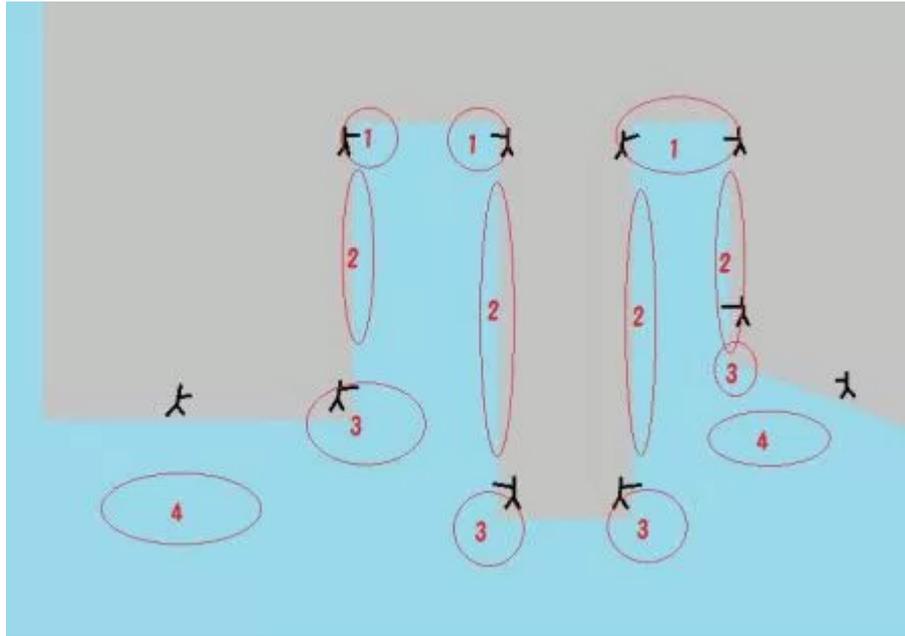
これに関しては私のホーム

周辺は港湾部ばかりではない
という事が理由の一つでしょう。

大都市で港湾部しか存在しない
というのなら、その何処かに
魚はいるはずなので、
地域によって違うでしょう。

それでは、いきますよ。

下の画像を見て下さい。



まず、

注意しなければならないのは

やはり**足元**です。

「足元に奴らはある」と思って

ポイントに近づいて下さい。

**1番のエリアが一番奥の
角のポイントです。**

ココは構造上、よく流れが当たる
場所で大体いつでも流れに
変化ができています。

一番カニなどの餌が多い
ポイントですね。

人の気配が無ければ
ほぼ必ずシーバスが通りかかる
ポイントで最も気配を消す
必要があるポイントです。

なぜなら、

こういう奥まった場所に
入ってくるシーバスは基本的に
警戒心が強くなるから。

先に人が入っている場合は
無視したほうがいいポイントです。

狙うなら岸壁沿いを狙うのが
いいんですが、ココで大事なのが
足元までキッチリとルアーを
引いてくる事です。

この角のポイントは
ハッキリ言って
これで釣れるか釣れないかが

分かれるとっていいです。

シーバスは足元にいます。

ベイトが居ないかぎり
沖に出る必要がないですから
影に身を隠せる岸壁沿いに
ついています。

ココで一つ大事な事を
覚えておいてください。

シーバスは岸近くのポイントへ
近づいて来るとき、必ず流芯部の
ボトム、又は岸壁際を通ります。

ベイトの気配がないときは
なるべく気配を消して、岸壁から
身を乗り出さないように
釣ることをオススメします。

ルアーを足元まで引き切る
その瞬間は出来ればしゃがんだ
状態で近づいてくださいね。

一方、明らかにベイトがいる時。

この場合は水面にベイトの気配が
あって、シーバスがライズ

してたりするので
少し離れて観察していれば
すぐに分かります。

ライズとはシーバスが水面に
追い詰めたベイトを捕食する時に
水面にでるモコっとか、
バシャっとかいう単発的な波です。

この場合は同じように岸壁から
探りますが、先ほどみたいに
シビアになる必要はないです。

いきなり岸壁の下を覗き込むのは
どうかと思いますが、こっそりと

しゃがんで近づく必要はないです。

なぜなら、シーバスは岸壁沿い
ではなく沖のベイトを見ているから。

いずれも基本通り、
上のレンジから
探っていきます。

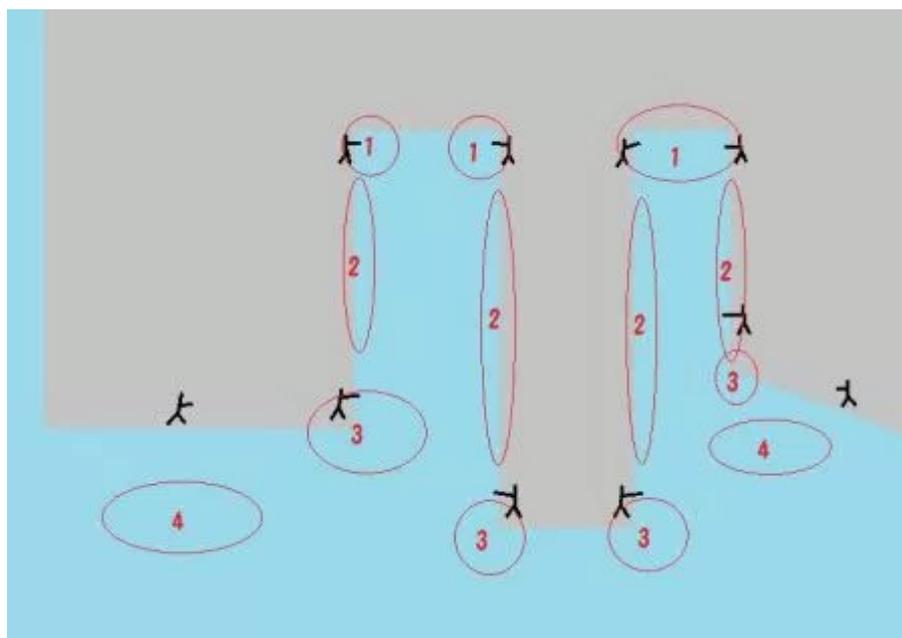
岸壁も同じです。

岸壁ジギングは一番最後に

試してくださいね。

次は2番です。

岸壁狙いですね。



そっと近づいて下を覗いて

流れがどっちに流れているのかを
確認してください。

見ても微妙過ぎて分からない

場合は岸壁際から一步下がつて

沖へ静かにキャスト。

ゆっくりと引いてきて

岸壁から竿先だけだして

静かにルアーを回収します。

このときルアーがどのように

流されながら岸に寄ってくるかを

確認すれば流れを知ることができます。

この流れの向きを調べてから

はじめてどっちの向きにキャスト

するのかが決まってくる。

なぜ、これをするのか？

港湾部のこういう場所は
みんなが釣りにくるメジャーな
フィールドになっていて、基本
魚達がスレています。

警戒心の強い個体が多いという事。

そして、よくお話をさせて

頂いているのですが、

魚と言うのは基本、流れの上流に

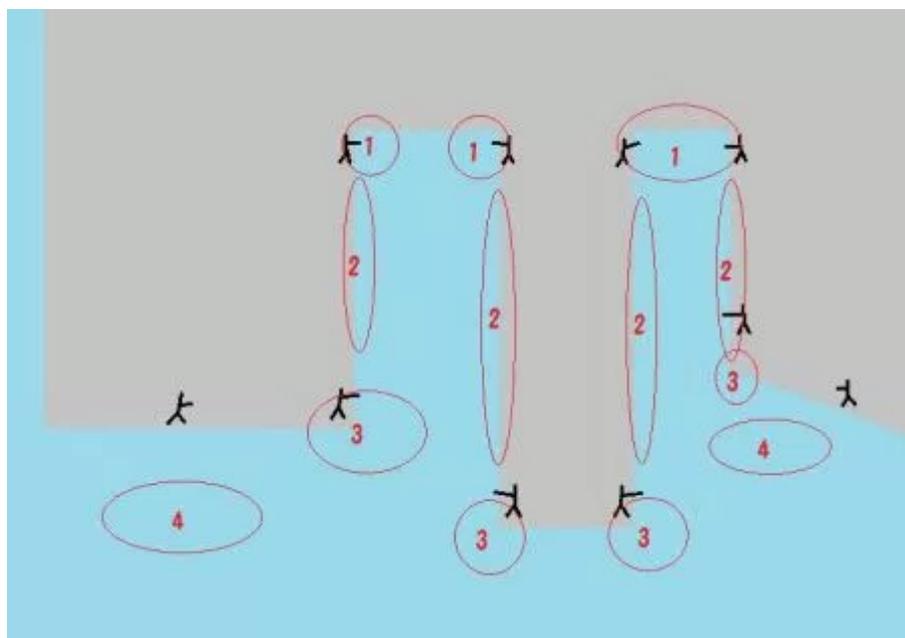
頭を向けて泳いでいます。

警戒心が強いフィールドで
この頭の向きを無視した不自然な
ベイトを演出してしまうと
シーバスも慣れてるので
一発でルアーだと見破られます。

そう、
そして彼らはいなくなった・・・。
みたいな事になります。

でも、コレもベイトが居て
水面がお祭り騒ぎになってる時は
あまり気にしなくても大丈夫です。

次は3番の外の角ですね。



ココも基本的には同じ。

ひっそりと近づいて、流れの
状態を確認します。

この時、流れの向きを確認しますが

1番2番と違ってこのポイントは

流れのヨレが発生している

場合があります。

この場合は岸壁を刺激せずに

無視して流れのヨレにドリフトで

ルアーを流し込んでいってください。

水面直下のレンジから順番に

レンジを下げていきます。

お約束の釣法ですね。

流れ次第でどっち側にもヨレが

発生します。

状況を見て攻めてくださいね。

これが終わったら、又は流れが
無かったら、岸壁攻めに移ります。

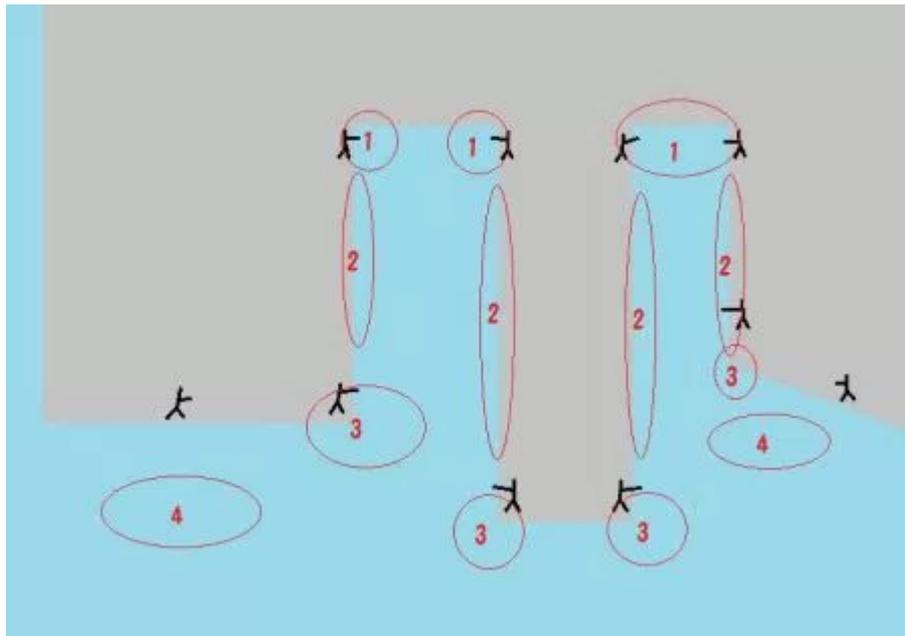
前にお話させて頂いた

要領で探ってください。

- 1、気配を消す**
- 2、流れを確認する**
- 3、着水音を抑えてキャスト**
- 4、足元までキッチリと引く**

です。

次は4番のエリア。



ココは遠くを狙うため、
そんなに気配を消さなくても

大丈夫です。

騒ぐのはまずいですが・・・。

ここもまず、
流れを確認してください。

そうしたら、

若干ダウンクロス気味に

キャストしてください。

先ほどお話した、

ルアーの頭の向きで

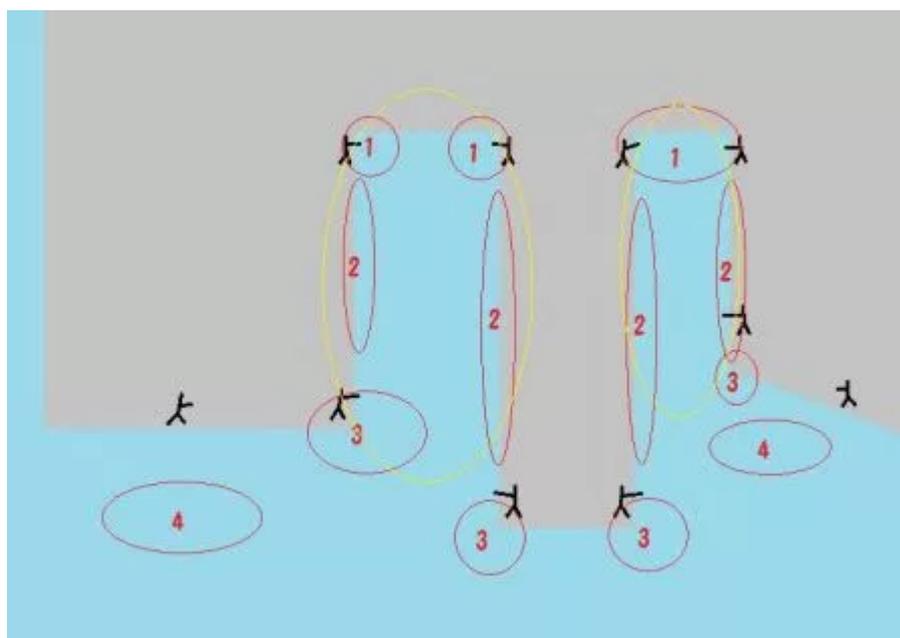
見切られるのを防ぐためです。

ダウncクロスとは、
自分の立ち位置から斜め前の下流に
向かってキャストする事です。

横に走っている流れに対して
クロスさせるような感じで
キャストするという意味合いで
ダウncクロス、アップクロスといいます。

【そして、実はこのエリア・・・、】

下の画像を見て下さい。



この黄色い線で囲ったエリア、

水深が深くて冬場、風浦になるような

ポイントであった場合はシーバスの

冬の居付き場になっている場所もあります。

港湾部の港まわりには

こういった冬場にシーバスの

居付き場になる場所が必ずあるので
広い範囲で探してみてください。

探すのは大変ですが、
一度見つけてしまえば毎年の
冬場の釣りで、圧倒的に釣果を
伸ばす事ができます。

しかも上手くいけば
シーバスの産卵場所になっている
場所もあるので、冬でも普通に
釣果をあげられるようになります。

小型のバイブレーションや
メタルジグなどで狙えます。

【最後に】

ここで、港湾部を攻める時に
持っていて方がいいリアーを
紹介しておきます。

一つは**シンキングミノー**です。
どのタイプでも構いません。

そして、もう一つは

シンキングペンシルです。

コレもあなたのセンスで選んでください。

最後に**鉄板バイブレーション**。

コレはルアー名を指定します。

エバーグリーンの

アイアンマービーという

ルアーです。

知る人ぞ知る、港湾部爆釣

バイブレーションですね。

さらに、
気を付けて欲しい点が
一点あります。

港湾部と言うのは、
世界の物流を担う
貿易関係などのお仕事を
される方たちの仕事場です。

本来、
釣りをする場所ではありません。

事実、釣りが禁止されている
エリアも多く存在します。

港湾部においてもそうですが、
そこでお仕事をされる
方たちが最優先です。

**絶対に邪魔になるような場所で
釣りをしたり、車を止めたり
しないでください。**

また、どいてほしそうな時も
あなたから進んで場所を
あけてあげてください。

港湾部従業員の方たちは

その気になればいつでも釣りを
出来ないように**“禁止エリア”**に
指定することが出来ます。

港湾部の人たちには、

「邪魔だなあ、ムカツくなあ」

と思われているんです。

私はよくお話させて頂いています。

自分がやられた時の立場に

立って考えてほしいと。

「やったー、あいつが邪魔してる

おかげで仕事出来ないや。

帰ろうぜ〜。」

とか、思わないですよ？（笑）

あなたなら、大丈夫ですよ？

よろしくお願いします。

それでは、

グッドラック！

【参考記事】

しんがライブ・オブ・シーバスと言うブログを
立ち上げた理念、その野望とは？

<https://seabass-live.link/?p=350>

シーバスとは？釣りに行く前に知っておいたほうが
いい秘密。

<https://seabass-live.link/?p=443>

実釣編記事を書くにあたってのシーバスルアーの
種類別解説と使い分け。

<https://wp.me/p6NdM5-9y>

シーバスフィッシングで爆るための

ホームフィールドの決め方！

<https://seabass-live.link/?p=458>

最初にマスターすべきリーリング、リトリーブ、

つまり引き方の基本。シーバスを始めるあなたへ。

<https://wp.me/p6NdM5-8I>

【しんのメルマガ】

<https://wp.me/p6NdM5-ce>

【お問い合わせ】

<https://tinyurl.com/nra5bar>

【ブログ ライブ・オブ・シーバス!】

<https://seabass-live.link/>